



新潟県

NEW

# 県立病院ニュース

～病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して～

第147号 平成30年10月 病院局発行

## 第2回県立病院経営委員会を開催

9月19日（水）に第2回県立病院経営委員会を開催しました。

「新潟県病院事業の取組方針」の取組状況について、客観的に評価をいただくとともに、経営に関する様々な意見・提言が出されました。

第3回委員会（平成31年1月開催予定）では、病院類型別の役割・あり方について、ご議論いただくこととしています。



### 経営に関する主な意見

- ① 人口減少の中、患者確保が見込めない病院は病床規模を適正化する必要がある。その際、増収が見込め、必要とされる病院に看護師等を集中配置するなどの取組を進めるべき。
- ② 病院機能評価は、認定に向け病院が一致団結して取り組もうという姿勢を見せることが、モチベーションや機能の向上、ひいては経営改善にもつながり、自分の欠点にも気づく。認定目標数をもっと高く設定して、前向きに取り組むべき。
- ③ 今の診療報酬制度では、大規模病院は黒字になりやすく、中規模病院は赤字になる傾向が強い。大規模病院は黒字を伸ばし、中規模病院は経費の節減に努めるというメリハリをつけた収支計画が必要ではないか。
- ④ 費用は使った分だけ収益化するか、事業目的にかなうことが大事である。必要な費用まで削減すると、病院経営が縮小方向という負のサイクルに入るので、費用は合理化すべき。
- ⑤ 県立病院のスケールメリットを活かした購入とともに、薬品や診療材料のデッドストックの減少に向け、数量管理が重要となる。
- ⑥ 各病院の持つ機能を明確化し、医療圏における各県立病院の立ち位置について、地域医療構想調整会議等の場で議論すべき。

議事概要全文・委員会資料は、新潟県病院局のホームページをご覧ください。  
(<http://www.pref.niigata.lg.jp/byoinkeiei/1356902981628.html>)



県立病院ニュースをリニューアルしました！



今号から、病院局3課からなる県病ニュース編集委員（9人）で作成することになりました。県立病院職員のみなさんに、県立病院に関する「旬」な情報を積極的に発信していくので、ぜひ読んでください！（経営企画課：A）



### 今年話題となった記者会見

平成30年の記者会見と言えば、「危険タックル」問題が大きな話題となりました。当初悪者扱いされていた学生の好感度が逆転したり、初動対応が悪かった大学が火に油を注ぐなど、問題を起こした組織のイメージを決定づけるのは問題そのものよりもむしろ、その後の対応であることが多いことが顕在化しました。

県立病院においても、組織が危機に陥った時の、メディアとのコミュニケーション研修が必要とされるため、病院局主催で、管理職を対象とした記者会見研修を開催しました。

### 研修の内容は・・・

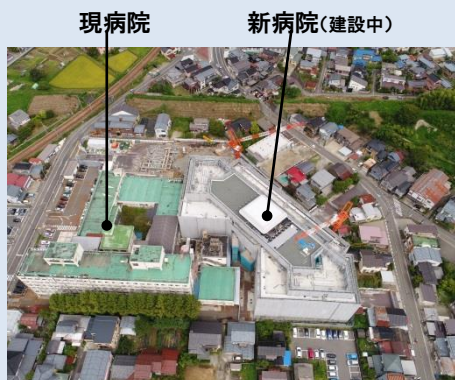
研修では、報道発表用資料の作成方法、記者会見の流れ、話し方、会見ですべきこと・してはいけないことなど、「記者会見のノウハウ」を学ぶとともに「危機に向き合う心構え」を持っていただき、各病院での万が一に備えていただきました。



### ◆ 参加者の声 ◆

- 模擬記者会見は実践的なやり取りを見ることが出来、記者の視点がよく理解できた。
- あいさつの仕方、禁句など慎重になりすぎても軽々しくてもいけないところを理解した。
- 記者会見の際は考えられる想定問答を様々な方向で考えて準備しておくことが大切。
- シミュレーションをすることで、とても参考になった。

## 加茂病院改築工事の進ちょく状況



H30.9.21撮影

(提供: 戸田・加賀田・小柳特定共同企業体)

建築工事進ちょく率 74.3%(9月末現在)

新・加茂病院は、今年1～2月の大雪等に伴い工程を見直し、来年平成31年秋頃の開院を予定しています。

建物の躯体は一部を除いて完成し、11月には外側の足場を取り外す予定になっています。また、院内では医療機器等の調達や、患者様の移転、電子カルテ・オーダリングシステム等の導入に向けた準備を進めています。

今後も、無事に開院を迎え、より良い医療が提供できるよう、着実に準備を進めていきます。

〔加茂病院経営課〕

# 決意を胸に 15名の教育担当トレーナー誕生



「今日の研修を現場で実践します！」  
「教育担当トレーナーとして学びを深めます！」「後継スタッフを育成します！」と、力強い行動宣言でした。

教育担当トレーナーとは、病院内で職種を超えチームで活動しながら総合的な学習支援を行う教育担当者の中で、県立病院における人材育成の根幹的な役割を担っています。

今年度も全3回シリーズの研修を受講し、新たに15名の教育担当トレーナーが誕生しました。研修最終日には受講者自らが研修講師となり、これまでに学んだスキルを実践するとともに、修了証交付時には全員が教育担当トレーナーとしての今後の「行動宣言」を力強く表明しました。

各病院では、今後も教育担当トレーナーを中心に院内教育委員会や部門担当者と連携し、「信頼される病院づくり」に向けた人材育成の取組を推進してください。

## 病院だけでは学べない継続看護

～新卒看護職員後期研修～



本年度の「新卒看護職員後期研修」では、初めて訪問看護実習を行いました。

松代、柿崎、津川の各病院に分かれ、訪問看護担当看護師さんと一緒に訪問看護を実習し、訪問診療にも同行しました。

地域医療病院でしか経験できない看護の提供方法や、家庭の中での療養者やご家族の姿を目の当たりにし、地域で支える在宅療養における看護について学べたのではないのでしょうか。

## 病院に新たな風

～H31新採用ガイダンス（一般行政（病院））～



一般行政（病院）とは・・・？

将来にわたって、県立病院経営を担う人材を確保・育成していくため、今年度から一般行政（病院）という職種を設けました。

10月1日に平成31年度の新採用者（一般行政（病院））の3名に対し、新採用ガイダンスを実施しました。

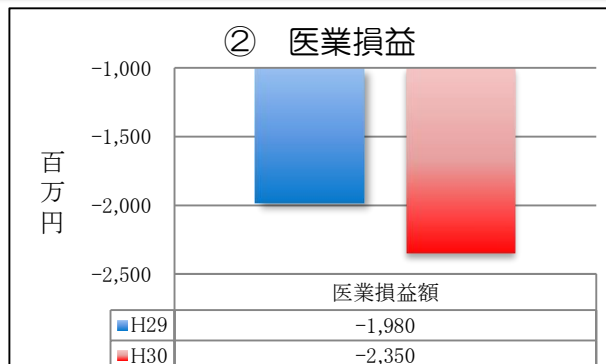
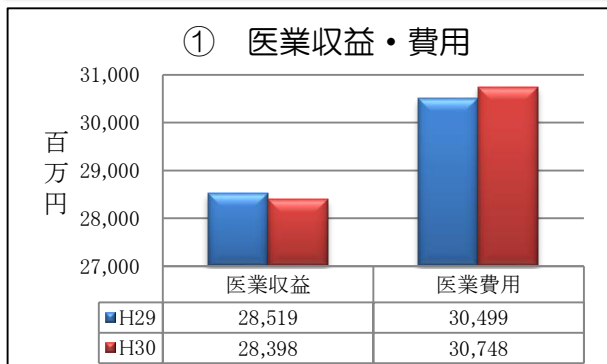
当日は、病院局長から歓迎のあいさつがあった後、県立病院の概要説明や先輩職員と語る座談会を行い、最後ががんセンターの施設見学を行いました。

先輩職員と語る座談会では、質疑応答が活発に行われ、県職員生活へのイメージが膨らんだのではないかと思います。

若者らしいフレッシュな感性を活かしながら経験を積み、将来に向かって県立病院の経営を支えていく職員になってくれることを期待しています。

# 9月までの決算状況（病院事業会計）

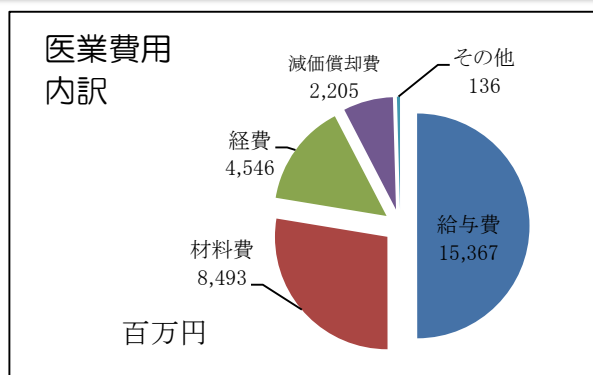
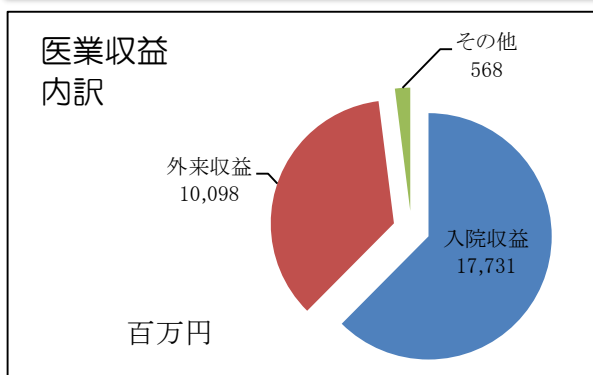
## 1 医業損益の状況



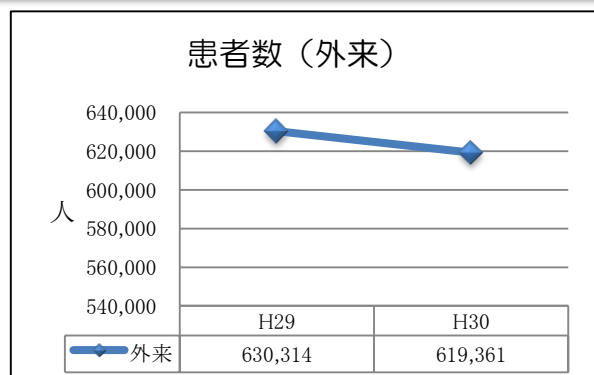
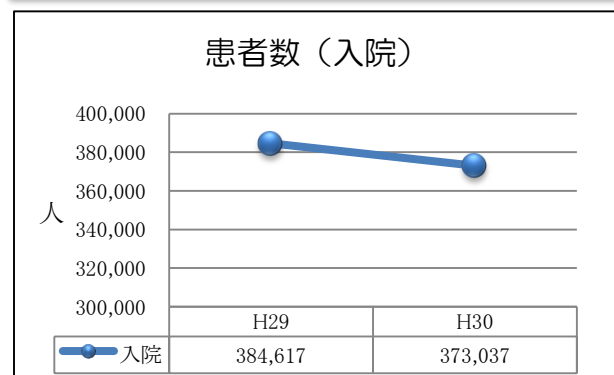
平成30年9月までと平成29年9月までとを比べると、医業収益は約1億2千万円減っている一方、給与費・材料費・経費などの医業費用は約2億5千万円増えています。（図①）

その結果、いわゆる本業の損益に当たる医業損益は、約3億7千万円赤字が増えています。（図②）

## 2 医業収益・医業費用の内訳



## 3 患者数の状況



### 【まとめ】

平成29年度決算では、医業外損益等を含めた最終的な純損益は約7億8千万円の赤字でした。現状のままだと、平成30年度はそれを超える赤字決算となることが予想されます。

平成28年度から2年連続赤字が続いており、今後もこの状況が継続すると、持続可能な運営にも支障を来しかねない状況となっています。

入院患者の確保等による収入増と費用の効率的執行による削減に、一層取り組んでいく必要があります。